

# 人材バンク “魅学” プログラム例記入書

登録者名（団体名） 山中 茉莉

プログラム名	原爆の恐ろしさから平和を考える ～最後の語り部が被爆体験を語る～		
プログラムのねらい	被爆体験やその後経験したことをお話することで、戦争の恐ろしさを心で理解し、生きることの大切さや平和について考えてもらう。		
講座名・テーマ 学習分野等	学 習 内 容 等 ( 具 体 的 に )	時間数 (分・時間)	備 考 (備品等)
1 大切な家族が伝えてくれたことと私の幼い頃の記憶	2歳の時、被爆した。爆心地から1.4kmの祖母の家だった。迫りくる炎から、必死に逃げた。助けを求める人を助けることもできず、たくさんの遺体を踏みながらとにかく逃げた。大勢の人が水を求め、川に飛び込んだ。雨が降り始め、人々は喜んだ。それはやがて黒くなり、私は怪我と雨で全身が赤黒く染まった。母は自分の唾をつけた布で、何度も拭き取ろうとした。広島のみちは三日三晩燃え続け、空が燃えているようだった。	全40分 ～50分	パソコン プロジェクター スクリーン
2 原爆の恐ろしさ	原爆は、たくさんの死者やけが人を出しただけではない。原因不明の吐き気やだるさにおそわれ、怠け者だと誤解された。健康への不安がずっとぬぐえない。差別を逃れるため、被爆者であることを隠して生活せざるを得ない人々もいた。原爆は、肉体的にも精神的にも被害を与える。		
3 平和の大切さ	戦争は殺し合うこと。勝者はいない。無念な死をとげた人がたくさんいる。どうしたら皆が仲良くやってけるのか、一生懸命考えてほしい。  ※スクリーンに資料を投影しながら講義を行います。		